

施された様々な工夫は老舗メーカーならではの 現在のロードレース用ブーツの見本

JAPEX Tel.03-3773-7633 <http://japex.net>

イタリア北部、海側のベネチア、そして内陸よりのミラノのあたりは、工業地帯としても有名だが、革製品や靴などの工房が集まっていることでも有名だ。今回紹介したフォーマ、TCX、そしてこのガエルネも、ミラノとその周辺にある。第二次大戦のとき、ミラノの東にあるトレビゾという町に、イタリア中から靴職人が集められ、軍靴の生産を始めた。戦後には、日本同様、敗戦国のイタリアでも復興のために多くの職人がそこで工房を開き、工場を建て、靴やブーツを作るようになったという。ガエルネは60年代、そんな靴メーカーからモトクロスブーツを作るメーカーへと転身、バイク用ブーツの老舗として、



GAERNE GP-1

■価格/4万5150円 ■カラー:ブラック、ホワイト、レッド、ブルー。サイズ:25.0cm~28.5cm。

世界中のライダーに親しまれている。テストしたのはロードレース用のトップモデル、GP-1だ。ガエルネのGマークがデザインのイメージになっているこのブーツは、今市場に出ているロードレース用ブーツの見本となったモデルと言える。最近のブーツは、転倒時に足首のケガを最小限に抑えるために、横方向に足首が動かないように、ブーツのくるぶし部分を固定したものが多く。しかし、単に固定してしまうと、今度は足首が動かなくなると、ブレーキやシフト操作がしづらくなる。そこで、横方向のねじれを防止して、縦方向だけに動く機構が開発されてきた。ガエルネフローティングシステムと呼ばれる機

構は、そのために開発された。写真の甲部の外側、ソールに続く部分からくるぶしまでのカーボン素材が足首を固定、さらに、くるぶしの少し上を支点として、そこからブーツ上部、ふくらはぎのあたりまで伸びているのが、センターウィッシュボーンフレーム。この二つの組み合わせが横方向のねじれを抑え、前方向の足首の動きだけに限定させているのだ。プロテクションについては、さらに多くの工夫がされている。まず、路面への打撃に対しては、インナーソールの下、かかと部分に、衝撃吸収素材を使ったパッドが装備されている。これは、足の裏を打ったり、転倒して着地したときのかかと部分の衝撃吸収に役立つ。また、ヒール部分のマグネシウムス

ライダーや、土踏まずの両サイドにえぐりを付けて、転倒時にブーツが路面に引っかかって、足首やヒザを傷めないようにしている。安全性と操作性は、器具にとって相反するものだ。ふくらはぎの太さは人によってまちまちだが、このブーツは内側にある大きめのベルクロと、外側のラチェット式バックルベルトの両方で調節が可能。一度セットすれば、ベルクロの脱着だけでフィットするし、微調整をバックルですればいい。もう一点、ブーツのソールのフィリングがいい。ステップやペダルの操作感、ステップバーとかかとの踏ん張り感など、とてもリニアで好印象。発売から2年経っても古さは感じない。今ある多くのブーツに影響を与えているようだ。

01_フローティングマウントされたセンターウィッシュボーンフレーム。ブーツから浮かせて配置することで操作方向への自然な動きを妨げず、アクシデントの際にはカーボンコンポジットの高剛性フレームが横方向やねじれ、後ろ方向への動きを規制して足首を保護する。02_かかと部分には衝撃吸収のための立体成型のクッションを装備。写真は中敷を外した状態。03_サイド部分のラチェット式バックルでふくらはぎ部分の調節が可能。バックル自体も前方向に移動でき、ふくらはぎ部分を広くすることができる。04_かかと部分にはショックアブソーバーを内蔵。マシンと接する部分にはラバー製のグリップガードを装着。ライダーはマグネシウム製。05_つま先部分のライダーはマグネシウム製。フロントシムプレート上部にはプラスチック製のライダーを装着。すべてのライダーがプラスドライバー1本で交換可能。06_ムレ防止のためにメッシュ素材を採用。



万全のアフターサービス

ガエルネ製品の輸入元であるジャベックスでは、日本国内に修理工場「ジャベックスサービスセンター」を設けている。修理設備はイタリアのファクトリーと同じ物を取り寄せ、熟練の職人がクオリティの高い修理を行なっている。修理をアフターサービスの一環として捕らえ、ユーザーの立場に立って、費用は極力抑えるようにしている。詳細はウェブを参照。 <http://japex.net/gaerne/repair.html>

